社　会　学　部　報

◇昭和49年11月20日　学部研究会　発表者
Professor Edward Norbeck, Department of Anthropology, Rice University, Houston, Texas（通訳萬成博教授）「Social and Cultural Changes in a Newly Industrialized Community」

◇昭和48年12月18日　学部研究会　発表者
高田真治助手「社会福祉計画と指標」

海外出張

杉山貞夫教授　昭和49年11月9日より11月24日まで，Neuroelectric Society 第7回大会出席並びに招待講演，国際人間工学会連合理事および Scientific Program Advisor として Washington, D.C. および University of Marylandを訪問。同連合1976年度大会の準備会合に出席のため，米国へ。

会員の新著

中野秀一郎助教授　柏岡富英（院生）　H.D. ダンカン著「シンボルト社会」（共訳）昭和49年11月，木鐸社

学　会　消　息

◇日本社会福祉学会第22回大会

昭和49年度の標記学会は，10月20日，21日の両日にわたって，龍谷大学において開催された。第1日は自由論題による個人発表にあてられ，77論題が107人の発表者によって発表せられた。論題の種類，範囲については特別の新しいものはなかったが，発表者は数年前に比して，若い年代の者が著るしく多くなったことは喜ぶべきことであった。

第2日は学会としての課題報告とそれを論題とするシンポジウムにあてられた。昨年度からの課題は「社会福祉における政策と方法」であり，今回はその第2回目として児童福祉を中心として報告された。第1分科会のテーマは「児童福祉政策と福祉運動」，第2分科会のそれは「児童福祉と国民要求」であって，それぞれ4名づつの報告者があった。シンポジウムは，この課題報告を受けて3名のパネラーによって討議を行った。

第2日に開かれた総会においては，本年9月，新規定よって改選された新理事が承認され，また日本学術会議が内閣総理大臣に対して行った「社会福祉の研究，教育体制についての勧告」が詳細に報告されて，参会者の注目をひいた。

◇日本時事英語学会

第9回関西支部研究集会が去る9月21日，関西大学で開かれ，本学部から西尾朗教授が出席，関西支部長として同集会の司会をつとめた。

第16回全国大会が10月19・20日の両日，慶応義塾大学で開かれ，本学部から西尾朗教授が出席，大会準備委員をつとめた。

◇日本社会学会大会

第47回日本社会学会大会は昭和49年10月19，20日の2日，京都の立命館大学の衣笠学舎で開催された。本学から会員多数参加したが，第1日午後労働の部会で小関藤一郎教授は司会にあたったほか，第2日午前理論部会で大学院博士課程の藤原英男君は「T．パーソンズの型の変類の再検討——問題点とその原因を探る——」と題する発表を行い，また万成博教授は午後の企業と経営の部会で，「複合組織の研究における収斂モデル」についてブラウン大学のマーシュ教授との共同研究の成果を発表した。

編　集　後　記

今年を最後に，2人の先生が定年で退職なさることになっているので，前回29号は藤原恵教授記念号，今回の30号は岡村重夫教授記念号とした。両先生に学問的に関係の深い方々からの論文のほか，多くの御投稿を頂け，内容のある記念号を刊行できたことを喜ぶとともに，執筆の各位の御労苦に感謝し，併せて両先生に心からの餞けを捧げる次第である。

回顧してみると，この社会学部紀要も満15年を経過した。この間のわが国の社会の変動，学部の発展をふりかえってみると，感慨無量である。いよいよ20世紀の最後の4半期をむかえ，この機関誌もさらに一層内容の充実強化をはかって，新しい時代の要請にこたえるとともに学界への寄与をより大きくしていかなければならないという責任の重大なことを痛感せざるを得ない。我々一同覚悟を新にして，今後の努力を倍増しなければならない。ただ，次号からは押しよせる経費増の波を克服するため，会費を若干値上げせざるを得なくなったことを御了承頂かなければならない。改めて関係各位の御理解と御支援をお願いしたい。そして，とくに内容充実について各位の一層の御精進と御協力をお願いしたい。

（昭和50年1月．小関記）